

1. 学歴

- 2000年 3月 一橋大学社会学部卒業
2000年 4月 一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程入学
2002年 3月 同課程修了, 修士(社会学)
2002年 4月 一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程入学
2005年 3月 同課程修了, 博士(社会学)

2. 職歴・研究歴

- 2003年 4月 - 2005年 3月 日本学術振興会特別研究員(DC)
2003年 8月 - 2004年 10月 ギーセン大学歴史学研究所近代史第1部門客員研究員
2005年 4月 - 2006年 3月 一橋大学大学院社会学研究科助手
2006年 4月 - 2009年 3月 関東学院大学経済学部専任講師
2009年 4月 - 2012年 3月 関東学院大学経済学部准教授
2012年 4月 - 一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史 A, 基礎ゼミ

(b) 大学院

西洋経済史, 比較経済史, ワークショップ/リサーチ・ワークショップ(経済史)

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

「経済史 A」では, 近代ヨーロッパを事例として, 都市化や工業化など現代社会形成の基礎となる社会構造の変動をテーマに取り上げ, その前提となる政治的・文化的枠組みにも着目する。本講義では, ヨーロッパ社会の歴史的位相を把握するだけでなく, 地域研究に必要な分析視角を社会経済史の観点から提示することを目指す。「基礎ゼミ」では, 経済史の基本文献の輪読を行い, 受講者に経済史研究の入門的な体験が出来る場を提供する。大学院の「西洋経済史」では, 近代ヨーロッパ経済史に関する英語ないしドイツ語の専門文献の輪読を通じて, 最新の研究動向に触れる機会を設ける。「比較経済史」では, 経済史学の古典や最近の注目すべき文献を手がかりに, 市場経済の展開過程を比較史的観点より検討している。

学部のゼミナールでは, 3年次の近現代ヨーロッパ経済史に関する文献の輪読と, 4年次の卒論執筆を通じて, 現代社会が形成された歴史的経路を把握するとともに, 歴史学的な思考方法を涵養することを目指す。大学院

のゼミナールでは、履修者の研究報告にもとづく論文執筆の指導に重点を置き、1次史料に基づく緻密な実証分析の方法を体得してもらおう。

4. 主な研究テーマ

一貫した研究課題は、主に19世紀後半～20世紀前半のドイツをフィールドとして、近現代ヨーロッパの社会変動を都市経済史の観点から把握することである。具体的な研究テーマは次の通りである。

(1) 都市化と電力業の展開

フランクフルト・アム・マインの電力業の分析を通じて、都市自治体給付行政の歴史的特質を明らかにするとともに、都市への電力導入から電力の必需化にいたる都市電化のプロセスを辿り、近代都市形成の実像を明らかにした。この成果は、単著『ドイツ近代都市社会経済史』として上梓した。

(2) 「社会都市」の政策理念

19/20世紀転換期は、国家的社会保障が未整備な中、都市自治体が生活環境の物理的改善と社会政策の展開を通じて、住民に一定の生活条件を保障した「社会都市」の局面と位置づけられる。ドイツでは、「都市の社会的課題」とよばれる政策理念が「社会都市」形成の原動力となったので、この政策理念の思想的研究に取り組んでいる。

(3) 都市失業保険の展開と「社会都市」・「社会国家」

ドイツで国家的失業保険が成立するのは両大戦間期のことであるが、都市レベルではすでに1900年代よりその萌芽がみられた。この都市失業保険の展開過程を、ベルリンなどの個別都市の事例に即して実態分析を行い、第一次世界大戦前後の「社会都市」と「社会国家」の重層的関係の解明を目指している。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『ドイツ近代都市社会経済史』日本経済評論社、2009年2月、1-276頁。(第5回政治経済学・経済史学会賞対象著作)

Elektrifizierung als Urbanisierungsprozess. Frankfurt am Main 1886-1933 (Beiträge zur hessischen Wirtschaftsgeschichte Bd. 9), Darmstadt, November 2014, S. 1-132.

(b) 論文(査読つき論文には*)

*「ドイツ近代都市における自治体給付行政とその諸問題ーフランクフルト・アム・マインにおけるオストエンド・プロジェクトを事例にー」『一橋論叢』第129巻第2号、2003年2月、93-108頁。

*「フランクフルト国際電気技術博覧会とその帰結ー近代ドイツにおける都市電力ネットワーク形成のーモデルー」『社会経済史学』第69巻第5号、2004年1月、19-38頁。

*「都市化時代の大都市と周辺自治体ー世紀転換期フランクフルトにおける合併と電力網の拡張ー」『一橋論叢』第133巻第2号、2005年2月、138-154頁。

*「ヴァイマル期ドイツにおける都市の電化プロセスーフランクフルト・アム・マインを事例としてー」『社会経済史学』第71巻第2号、2005年7月、49-70頁。(第2回社会経済史学会賞対象論文)

「黎明期の都市電化ー第二帝政期フランクフルトを事例としてー」土肥恒之(編著)『地域の比較社会史ーヨーロッパとロシアー』日本エディタースクール出版部、2007年10月、137-169頁。

*「広域発電網確立期における都市電力業ーヴァイマル期フランクフルトを中心にー」『歴史と経済』第198号、

2008年1月, 17-31頁。

*「世紀転換期ドイツにおける都市政策理念—1903年ドイツ都市博覧会を中心に—」『西洋史学』第232号, 2009年3月, 23-43頁。

「ドイツ社会政策学会における近代都市論—K.ビュッヒャーの所論を事例に—」関東学院大学経済学会『経済系』第240集, 2009年7月, 24-42頁。

*「『社会都市』における失業保険の展開—第二帝政期ドイツを事例として—」『歴史と経済』第211号, 2011年4月, 3-12頁。

*「ヴィルヘルム期ドイツにおける都市失業保険—大ベルリン連合を事例として—」『社会経済史学』第77巻第1号, 2011年5月, 71-91頁。

*「戦時失業扶助と『社会都市』—第一次大戦期ハンブルクを事例として—」『社会経済史学』第80巻第1号, 2014年5月, 37-58頁。

“Defending the municipal electric services against privatization: a case study of Frankfurt am Main during the Weimar period”, Discussion Paper Series (Graduate School of Economics, Hitotsubashi University), No. 2014-12, September 2014, pp. 1-21.

(c) 翻訳

ヴォルフガング・パウワー著／大津留厚監訳『植民都市青島 1914-1931年—日・独・中政治経済の結節点—』昭和堂, 2007年2月〔共訳:第1部および第3部担当〕。

カール・ランプレヒト著／森宜人監訳／東風谷太一・志田達彦訳『中世におけるドイツの経済生活—結語—』一橋大学社会科学古典資料センター Study Series No. 70 (2015年3月掲載予定)。

(d) その他

「資料紹介『第3回ドイツ都市会議総会議事録(1911年9月12日, 於:ポーツェン)—議題「失業保険問題に関する声明」—』(1)~(5)」関東学院大学経済学会『経済系』第243-247集, 2010年4月-2011年4月。

「資料紹介『ドイツ都市会議調査報告:大戦勃発に起因する諸都市の給付事業についての暫定的概観—ドイツ都市会議本部報告書, 第4巻第18/19号(1914年9月)所収—』」関東学院大学経済学会『経済系』第252集, 2012年7月, 89-120頁。

「電力が変える経済社会の風景—ベル・エポックのドイツ都市—」一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣, 2013年2月, 202-209頁。

「書評:福澤直樹『ドイツ社会保険史—社会国家の形成と展開—』名古屋大学出版会, 2012年」東京大学経済学会『経済学論集』第78巻第4号, 2013年3月, 50-53頁。

「書評:中野忠・道重一郎・唐澤達之(編)『一八世紀イギリスの都市空間を探る—「都市ルネサンス」論再考—』刀水書房, 2012年」『歴史と経済』第221号, 2013年10月, 53-55頁。

「書評:森良次『19世紀ドイツの地域産業振興—近代化のなかのビュルテンベルク小営業—』京都大学学術出版会, 2013年」『西洋史学』第251号, 2013年12月, 53-55頁。

「書評:森下嘉之『近代チェコ住宅社会史—新国家の形成と社会構想—』北海道大学出版会, 2013年」『歴史と経済』第224号, 2014年7月, 44-45頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

「第二帝政期ドイツ都市における失業保険問題—大ベルリン連合を事例として—」社会経済史学会第 79 回全国大会自由論題報告, 2010 年 6 月 19 日, 関西学院大学。

*「『社会都市』における失業保険の展開—第二帝政期ドイツを事例として—」2010 年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会共通論題報告「都市の公共性—主体・政策・規範—」, 2010 年 11 月 14 日, 首都大学東京。

「世紀転換期ドイツにおける都市失業保険—『社会都市』論の観点を中心に—」近代社会史研究会第 242 回例会, 2012 年 6 月 23 日, 京都大学。

*「書評: 福澤直樹『ドイツ社会保険史—社会国家の形成と展開—』名古屋大学出版会, 2012 年」ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.), 2012 年 12 月 8 日, 青山学院大学。

*「書評: 中野忠・道重一郎・唐澤達之(編)『—八世紀イギリスの都市空間を探る—「都市ルネサンス」論再考—』刀水書房, 2012 年」都市経済史フォーラム／比較都市史研究会共催研究会, 2013 年 3 月 16 日, 早稲田大学。

「第一次世界大戦期ドイツの失業扶助—ハンブルクを事例として—」社会経済史学会第 82 回全国大会自由論題報告, 2013 年 6 月 1 日, 早稲田大学。

*「書評: 森下嘉之『近代チェコ住宅社会史—新国家の形成と社会構想—』北海道大学出版会, 2013 年」東欧史研究会／西洋近現代史研究会共催研究会, 2013 年 6 月 8 日, 大正大学。

*「書評: 永山のどか『ドイツ住宅問題の社会経済史的研究—福祉国家と非営利住宅建設—』日本経済評論社, 2012 年」ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.), 2013 年 7 月 20 日, 広島大学。

「地域史研究のアクチュアリティ—増田四郎と一橋の西洋史研究—」比較地域史研究会, 2013 年 10 月 27 日, 一橋大学。

「趣旨説明: 地域史再考—ドイツとフランスの事例から—」現代史研究会／「歴史と人間」研究会共催シンポジウム, 2013 年 12 月 15 日, 一橋大学。

"Defending the municipal electric services against privatization: a case study of Frankfurt am Main during the Weimar period", 12th International Conference on Urban History (EAUH), NOVA University of Lisbon, 5th September 2014.

*"Die Entwicklung der Arbeitslosenunterstützung in der "Sozialstadt": Fallstudie von Groß-Berlin und Hamburg zu Beginn des 20. Jahrhunderts", Kolloquium der Forschungsstelle für die Zeitgeschichte Hamburg, 9. Februar 2015.

(b) 国内研究プロジェクト

「20 世紀初頭ドイツにおける都市失業保険の展開—『社会都市』論の実証的研究—」, 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B), 関東学院大学, 2010 - 2011 年度, 研究代表者。

「第一次世界大戦期ドイツの都市失業扶助—総力戦体制と『社会都市』—」, 日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究(B), 一橋大学, 2012 - 2013 年度, 研究代表者。

「都市ガバナンスの比較史的研究—日本, ドイツ, イギリスを事例として—」, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), 東京大学, 2013 - 2015 年度, 研究分担者(研究代表者: 馬場哲氏)。

「ワイマール期ドイツの失業者救済における『社会都市』—『社会国家』との関係を軸に—」, 日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C), 一橋大学, 2014 - 2016 年度, 研究代表者。

(d) 研究集会オーガナイズ

ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.), 2010年12月12日, 専修大学。
ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.), 2011年6月19日, 専修大学。
ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.), 2011年12月18日, 専修大学。
ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.), 2012年6月17日, 専修大学。
比較地域史研究会, 2012年10月20-21日, 一橋大学。
比較地域史研究会, 2013年10月26-27日, 一橋大学。
現代史研究会, 2013年11月30日, 法政大学。
現代史研究会/「歴史と人間」研究会共催シンポジウム, 2013年12月15日, 一橋大学。
現代史研究会, 2014年1月26日, 法政大学。
一橋大学国際交流セミナー, 2014年3月29日, 一橋大学。
現代史研究会, 2014年4月12日, 一橋大学。
現代史研究会, 2014年5月10日, 法政大学。
現代史研究会, 2014年6月29日, 一橋大学。
現代史研究会, 2014年7月19日, 一橋大学。
現代史研究会シンポジウム, 2014年11月1日, 共立女子大学。

C. 受賞

第2回社会経済史学会賞(社会経済史学会, 2006年)
第5回政治経済学・経済史学会賞(政治経済学・経済史学会, 2010年)

6. 学内行政

(b) 学内委員会

附属図書館委員(2012年4月 - 2014年3月)
学部教育専門委員(2014年4月 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

東京外国語大学外国語学部・非常勤講師(2010年度)
関東学院大学経済学部・非常勤講師(2012 - 2013年度)
東京学芸大学教育学部・非常勤講師(2012年度 -)
早稲田大学政治経済学部・非常勤講師(2013年度 -)
東京経済大学経済学部・非常勤講師(2014年度)
首都大学東京都市教養学部・非常勤講師(2014年度)

(b) 所属学会および学術活動

社会経済史学会
政治経済学・経済史学会(研究委員 2008 - 2011年, 編集委員 2011年 -)
ドイツ資本主義研究会(ADWG. N.F.)(事務局 2010 - 2012年)
日本西洋史学会

8. 官公庁等審議会・委員会等における活動

「教科科目第一委員会」委員, 独立行政法人大学入試センター(2010 – 2011 年度)

9. 一般的言論活動

「都市文明としてのヨーロッパ」洛南高等学校文化祭図書館文化講座, 2013 年 9 月。

「都市のなかに歴史を読む」中央大学附属高等学校「ステップ講座」, 2013 年 11 月。

「時計台再考」『HQ (Hitotsubahi Quarterly)』Vol. 43, 2014 年 7 月, 51 頁。